

平成23年度指定管理運営業務評価票

施設名称：近つ飛鳥博物館・近つ飛鳥風土記の丘	指定管理者：大阪府文化財センター・近鉄ビルサービスグループ	指定期間：平成23年4月1日～平成28年3月31日	所管課：大阪府教育委員会事務局文化財保護課
------------------------	-------------------------------	---------------------------	-----------------------

評価項目	評価基準	指定管理者の提案内容	指定管理者の自己評価		文化財保護課の評価		評価委員会の意見
			事業実績	自己評価	評価	評価に対する意見	
<b>I 提案の履行状況に関する項目</b>							
1施設の設置目的及び管理運営方針	○「社会教育法」「博物館法」「公立博物館の設置及び運営上の望ましい基準」をふまえて運営しているか。 ○博物館及び風土記の丘の設置理念・使命を理解して運営しているか。 ○博物館と風土記の丘の一体管理による効率的な運営をしているか。 ○公の施設として求められる役割を理解して運営しているか。 ○自主財源確保に向けた運営がなされているか。	○資料の収集、整理、保管に努め、文化財を後世に伝えます。	<p>■資料の適切な管理 ◇重要文化財の美園古墳家形埴輪・壺形埴輪の修復 平成22・23年度の文化庁事業として、保管者である当館は修復に積極的ににかかわり、修理方法の検討、修理経過の意見を文化庁と共に修復業者に対して述べた。修復後の公開は、平成24年度春季特別展において行う予定であり、修復について文化庁監修「月刊文化財」に掲載される予定。 ◇重要文化財修羅の点検、紫金山古墳・南塚古墳の保存状態点検 定期検査を修羅は3月に、紫金山古墳・南塚古墳は10月に実施。 ◇実物資料・写真資料の貸出平成23年度1月末現在 55件、164点平成22年度1月末現在 24件、105点平成23年度は鹿兒島県、大分県、神奈川県をはじめとし、写真資料は小学校教科書製作会社からの依頼が9件（平成22年度7件）あった。</p>	S A B C	S A B C	風土記の丘との一体管理をふまえた館の運営をおこなうために、大阪府文化財センターと近鉄ビルサービス株式会社との運営グループ化により、新たな体制の下、新規事業に取り組んでいる。 土曜講座、校外学習や出前事業の取組みが昨年度の実績を上回るなど成果を挙げている。 また、新規補助金等の申請など効率的運営と自主財源の確保に努めており、指定管理者の自己評価については適正と考える。	施設所管課の評価は妥当。
		○歴史、文化等に関する教育の充実に寄与します。	<p>■校外学習の小中学校 平成23年度1月末現在 46校、3,738人 平成22年度1月末現在 35校、2,388人 （ホームページを見たとの問い合わせが増加（ホームページリニューアルの効果）） ■出前授業 平成23年度1月末現在 59回、2,089人 出前授業の目標 62回 前年比 1,058名増 平成22年度1月末現在 36回、968人</p>				
		○大阪の魅力を向上します。	<p>■百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録へに向けた取組：関連資料の展示 秋季特別展「百舌鳥・古市の陵墓古墳」展示室入館者9,423人 夏季企画展「動物大百科―出土品からさぐる動物とのかかわり―」展示室入館者4,285人 冬季特別展「歴史発掘おおさか2011―大阪府発掘調査最新情報―」展示室入館者 開催中 大阪府内の埋蔵文化財の最新情報を発信した冬季特別展は「大阪府立」としての博物館施設の使命を担ったと考えている。 ■大阪市内での講演会（9月19日）申込1227人、当選696人、当日参加559人。 館長および外部講師の講演会を実施した。大阪市内の交通利便な場所において実施し、大阪の魅力を発信し、かつ、博物館の存在を周知した。 ■安藤忠雄講演会（3月3日）申込658人、当選553人、当日参加383人 歴史公園として、また、自然の憩いとなっている近つ飛鳥風土記の丘では、当館設計者の安藤忠雄氏の講演会を実施し、近つ飛鳥博物館、近つ飛鳥風土記の丘梅の魅力を発信した。 ■さくらまつり（3月31日、4月1日） 地元で愛される近つ飛鳥博物館、近つ飛鳥風土記と桜の魅力を発信。</p>				
		○高い専門性をもつ人材と豊かな資料の活用を目指します。	<p>■豊かな資料の活用 当センター保管資料を夏季企画展、冬季特別展では積極的に活用し、展示した。 ■高い専門性をもつ人材 ◇冬季特別展では当センター職員を講演者として調査成果の発表をした。 ◇当館学芸員は華頂短期大学「考古学」、大阪教育大学「考古学」&lt;新規&gt;の非常勤講師の委嘱を受けた。 ◇学芸員資格取得課程の「博物館実習」を受入れ。 ■「客員学芸員」制度は平成24年度に導入する予定。</p>				
		○調査研究を進め、最新の成果を発信します。	<p>■土曜講座の実施 当館学芸員や当センター職員、大阪府内文化財職員により、研究成果や発掘調査成果を発信。 平成23年度1月末現在 10回 参加人数338人 平成22年度1月末現在 10回 参加人数298人 ■「館報14」の刊行 博物館活動、研究活動を公表している。 ■外部研究者との協働 &lt;新規&gt;別府大学渡辺智恵美准教授と一須賀古墳群出土土器の分析を行い、平成24年度にはその成果を公表する予定。</p>				

評価項目	評価基準	指定管理者の提案内容	指定管理者の自己評価		文化財保護課の評価		評価委員会の意見
			事業実績	自己評価	評価	評価に対する意見	
		○グループ化により、効率的かつ効果的な運営を目指します。	<p>■近鉄ビルサービス株式会社及び近鉄グループ企業との連携          &lt;新規&gt;施設管理部門の各項目について、合理化、効率化を進めることができた。また、学芸部門では近鉄文化サロンと共催講座を実施し、新しい客層を獲得する機会を得ている。近鉄ケーブルネットワーク株式会社（KCN）を通じて広報の協力を得ている。</p> <p>■自主財源確保のための補助金等の申請          ◇文化庁文化財部美術学芸課の「特別展等の重要文化財等公開促進事業」を活用し、荷造・輸送費の一部を負担していただいた。</p> <p>&lt;新規&gt;文化庁文化財部伝統文化課の「地域活性化事業」のうち、ミュージアム活性化支援事業の補助を受け、外国語・児童向け音声ガイドの整備と常設展示品の題箋の外国語表示を作成。</p> <p>&lt;新規&gt;9月19日実施の大阪市内での講演会では、りそなグループの協力により、りそな銀行本店の講堂使用の提供を受けた。</p> <p>&lt;新規&gt;上記りそなでの講演会のポスター・チラシの印刷費の一部を安藤文化財団より、補助を受けた。</p>				
2 平等な利用を図るための具体的手法・効果	○事業内容が平等利用を担保する内容となっているか。 ○高齢者、障がい者等に対する適切な配慮がなされているか。	○地方自治法第244条の2・3項を踏まえ、平等利用の確保に努めます。	<p>■入館料収受においては65才以上の割引設定があり、入館時に確認し、不利益にならないように確認している。</p> <p>■「近つ飛鳥ギャラリー」の実施          無料ゾーンにおいて絵画や写真を展示し、広く府民に活動を発表する機会を提供。          平成23年度1月末現在 8回 開催日数 174日          平成22年度1月末現在 9回 開催日数 166日</p>	S A	S A	児童向け音声ガイドの作成や外国人利用者に対する対応など、平等利用に向けた取組みが広く行われており、新規事業も含め、提案内容を着実に実行しており、指定管理者の自己評価については適正と考える。	施設所管課の評価は妥当。
		○高齢者、障がい者等に対する利用援助を進めます。	<p>■車椅子、ベビーカーを自由に使用できるように設置。          ■特別展示室のパネル製作時には、文字の大きさを配慮した。</p>	B C	B C		
		○子どもに分かりやすい解説を充実していきます。	<p>■夏季企画展では、解説パネルを児童向けと保護者向けの2種類を作成し、児童視点の解説、また、保護者視点のパネル作成を目指した。          ■児童向け音声ガイドの作成          &lt;新規&gt;文化庁の地域活性化事業の一環として大阪芸術大学と連携し、作成。</p>				
		○外国人利用者にやさしい博物館を目指していきます。	<p>■外国語の音声ガイド・インフォメーション・展示室のキャプションの作成          &lt;新規&gt;文化庁の地域活性化事業の一環として奈良大学、龍谷大学、太子町教員と連携して、上記の韓国語、中国語、英語を作成。</p>				
3 利用者の増加を図るための具体的手法・効果	○学校教育との連携、館外普及事業、広報普及計画等について、前回指定管理実績と同等もしくはそれ以上に積極的な事業を実施しているか。 ○府民ニーズに合致した多彩なイベントを実施しているか。 ○その他利用者の増加を図るための具体的手法をとっているか。	○特別展・企画展・スポット展示などを充実します。	<p>■春季特別展、夏季企画展、秋季特別展、冬季特別展の実施。          ◇春季特別展：当館常設展示にかかわるテーマのひとつ。          ◇夏季企画展：夏休みにあわせて児童が大阪の歴史に興味をもち、親しみをもてるようにした。          ◇秋季特別展：大阪府、堺市、羽曳野市、藤井寺市が進める百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録を目指す中で後押しができた。宮内庁の全面的な協力を得ることができ、大阪府立の博物館でこそ実施できる展覧会と外部から評価された。          ◇冬季特別展：大阪府内の全時代の遺跡を扱い、大阪の歴史の深さを再認識してもらう機会となった。また、この企画も大阪府立の博物館こそが実施できる企画として評価されている。府内市町村にとっても、資料を積極的に活用できる機会として捉えてもらっている。</p> <p>■各展覧会開催期間は可能な限り長くし、見学する機会を増加。          ◇春季特別展：4月23日～6月26日 開館日数57日（平成22年度57日）          ◇夏季企画展：7月16日～9月4日 開館日数44日（平成22年度45日）          ◇秋季特別展：10月1日～12月4日 開館日数56日（平成22年度56日）          ◇冬季特別展：1月21日～3月25日 開館日数57日（平成22年度44日）</p> <p>■特別展企画展の自治体主催・後援名義：広報等、多くの協力を得た。          ◇春季特別展：〔後援〕堺市、河南町・河南町教育委員会、太子町・太子町教育委員会          ◇夏季企画展：〔後援〕堺市、羽曳野市教育委員会、藤井寺市教育委員会、河南町・河南町教育委員会、太子町・太子町教育委員会          ◇秋季特別展：〔主催〕堺市、羽曳野市、羽曳野市教育委員会、藤井寺市、藤井寺市教育委員会          〔後援〕河南町・河南町教育委員会、太子町・太子町教育委員会          ◇冬季特別展：〔後援〕河南町・河南町教育委員会、太子町・太子町教育委員会          ■スポット展示：最新成果を公開する機会の実施。          安松田遺跡、高宮遺跡、藤の森古墳 3回 全53日          平成22年度：5回 全91日</p> <p>■入館者          平成23年度1月末現在 82,132人          平成22年度1月末現在 82,325人          平成23年度入館者目標 110,500人</p>	S A B C	S A B C	利用者の増加を図るため、前回指定管理を行った経験に基づき、多彩な特別展を企画し、展示日数等を増やす努力を行っている。入館者数増を目指している。 館外利用者についても、新規企画を行い、利用者の確保に努め充実を図っている。また、新規事業として入門講座を実施し、新たなリピーターを発掘するなど昨年度以上の取組みを行ったことから、指定管理者の自己評価については適正と考える。	施設所管課の評価は妥当。

評価項目	評価基準	指定管理者の提案内容	指定管理者の自己評価		文化財保護課の評価		評価委員会の意見
			事業実績	自己評価	評価	評価に対する意見	
		○「博物館in school」事業を充実し、学校教育との連携を進めます。	<p>■&lt;新規&gt;校外学習案内資料に風土記の丘を含めた1日コースや奈良方面からコースの取り方等、実態にあわせたコースを提案した。</p> <p>■出前授業：体験（勾玉作り、埴輪作製、古代衣裳着用）を通じて、学習をした。</p> <p>平成23年度 1月末現在 小中学校33回1,270人、高校大学26回819人 平成22年度 1月末現在 小中学校21回 785人、高校大学19回246人 平成23年度目標 70回</p> <p>&lt;新規&gt;懐風館高等学校での地域誌コース &lt;新規&gt;柴島高等学校での「産業社会と人間」（進路を切り開く力をつける）</p> <p>■教職員の研修：博物館と学校教育の連携について研修を実施した。</p> <p>平成23年度：4回77人 教員初任者研修2、教育委員会連絡協議会、教員研修 平成22年度：4回96人 教員初任者研修、教職員互助組合、中学校校長会、社会科教員研修</p> <p>■高等学校の「集中セミナー」の受入れ 大手前高等学校での進路選択学習を当館で受入れ。</p> <p>■地元中学校の職業体験の受入れ 平成23年度 1月末現在：6校 39人 平成22年度 1月末現在：4校 16人</p>				
		○「出かける博物館」事業を充実し、知名度アップを図ります。	<p>■公民館等での歴史講座 ◇平成23年度 1月末現在：13回 参加者数1,067人 平成22年度 1月末現在：17回 参加者数2,169人 平成23年度 目標 29回 平成23年度は高槻市、四條畷市、東大阪市、富田林市、羽曳野市の公民館等で実施。</p> <p>◇&lt;新規&gt;大阪府立中央図書館において「大阪歴史探訪」の出張講座を弥生文化博物館、日本民家集落博物館と共同で実施した。</p> <p>■&lt;新規&gt;大阪市内で館長と外部講師による講演会 定員500人 申込1,227人 当日参加者559人 広く博物館や大阪の歴史について知る機会として実施した。</p> <p>■特別展等に伴う「河内飛鳥れきしウォーク」 利用者の満足度をあげることができた。</p> <p>平成23年度 3回 参加者120人 平成22年度 5回 参加者294人</p> <p>■自治体、自治会への行事参加等の協力 河南町等の行事への協力、体験学習等の出展。 平成23年度 15回 参加者3,205人 平成22年度 8回 参加者1,591人</p>				
		○幅広いネットワークで広報活動を強化します。	<p>■近畿日本鉄道の協力 駅構内でのポスター掲示、チラシをラックに配置してもらう等の協力を得た。</p> <p>■&lt;新規&gt;近鉄文化サロンの協力 共催講座案内チラシに博物館展示会等の情報を掲載していただいた。</p> <p>■各自治体の広報誌・ホームページ、地元ミニコミ誌等への掲載 平成23年度 河南町等自治体15回、地元ミニコミ誌等27回 平成22年度 河南町等自治体12回、地元ミニコミ誌等14回</p> <p>■&lt;新規&gt;大阪府を通じてローソン・イオンのラックにチラシを設置。</p>				
		○「府民が参加する博物館」事業を推進します。	<p>■近つ飛鳥ギャラリーの実施 平成23年度 10回 開催日数207日（3月末予定） 平成22年度 12回 開催日数215日 無料ゾーンを利用。「MOA美術館 南河内児童作品展」や「太子町 親子で写生大会作品展」等を実施し、就学生や親子での来館につながった。</p>				
		○府民ニーズに合致した多彩なイベントを実施します。	<p>■&lt;新規&gt;入門講座（常設展示室の展示解説）の実施 10回 今まで実施していたホールでの解説ではなく、展示室での解説へ変更。多人数ではないが、実物を目の前にした解説は好評であり、新たなリピーターもできた。</p> <p>■体験する博物館 夏季企画展にあわせ勾玉作りを実施。 4回</p>				

評価項目	評価基準	指定管理者の提案内容	指定管理者の自己評価		文化財保護課の評価		評価委員会の意見
			事業実績	自己評価	評価	評価に対する意見	
		○風土記の丘を積極的に活用します	<p>■風土記の丘を会場とした古墳時代まつり 木の工作、修羅引き、クイズラリー等、自然を活かした催しを実施。 平成23年度 参加人数605人 平成22年度 参加人数512人</p> <p>■小学校校外学習での活用：クイズラリーによる古墳探検、修羅引き</p> <p>■風土記の丘入園者数 平成23年度1月末現在 84,218人 平成22年度1月末現在 76,399人 平成23年度来園者目標 102,000人</p>				
4サービスの向上を図るための具体的手法・効果	○利用者の学習を助けるための情報提供をしているか。 ○ウェブを活用した積極的な事業を展開しているか。 ○館外事業や館外展示等の積極的な資料活用が行われているか。 ○その他サービスの向上を図るための具体的手法が提案されているか。	○普及ゾーンの開館時間は9時45分に早めます。	<p>■&lt;新規&gt;4月より開館時間を9時45分に変更。（従前は10時） 小学校団体等、その日の博物館活用がスムーズに進むようになった。</p>	S	S	一般向けスタンプカードの導入が翌年度にずれ込む見込みであるが、開館時間を繰り上げHPのリニューアル、充実や館資料の公開活用を行うことにより、利用者に対するサービス向上を図っていることから、指定管理者の自己評価はBであるが、Aが適正であると考えられる。	施設所管課の評価の変更は妥当。
		○スタンプカードを導入します。	<p>■こどもファーストデイ参加に際して、スタンプカードを作成。 リピーターの獲得につながっている。 ■一般向けスタンプカードは平成24年度に作成する予定。</p>	A	A		
		○ホームページを充実します。	<p>■&lt;新規&gt;リニューアルの実施 平成23年度12月末現在 アクセス数112,865 平成22年度12月末現在 アクセス数 83,796 前年度比29,069増 校外学習のプログラム等が見やすくなり、ホームページの情報をもとにした電話問い合わせが増加した。 ◇学芸員のブログ更新 平成23年度1月末現在 61回 平成22年度1月末現在 54回 日頃の活動を積極的に報告しています。来館者から「ブログ見たよ」という声がかえっている。</p>	B	B		
		○相談カウンターを充実し学習を支援します。	<p>■大阪府文化財センターの発掘調査報告書は刊行後、早期に閲覧できるようにしている。</p>	C	C		
		○館蔵資料を活用し、出張展示などの館外事業を充実します。	<p>■出張展示 大阪府立狭山池博物館「一須賀古墳群と近つ飛鳥博物館」 観覧者7,752人。 特別展チラシ等も同時に置き、広く周知する機会とした。 ■体験用古代衣裳の活用 藤井寺市教育委員会や世界文化遺産推進会議に貸出し、活用された。 ■館外事業の参加者数（館外出展、出張講座、出張授業等） 平成23年度1月末現在 17,225人 平成22年度3月末現在 14,863人</p>				
		○「風土記の丘」の安全、快適な活用を目指します。	<p>■毎日巡回し、落ち葉清掃、通路破損確認を実施。 ■出勤時等園路を通行する職員は、園内で接した来園者に積極的にあいさつの声かけを実施。</p>				
5新しい展示テーマ・運営手法の提案	○学術研究の成果に基づいた魅力あるテーマ選定及び展示手法を実行しているか。 ○展示や博物館資料をよりよく理解できる方法をとっているか。 ○その他新しい展示テーマ選定及び運営手法を実行しているか。	○「世界文化遺産」候補の百舌鳥・古市古墳群に関する展示をします。	<p>■百舌鳥・古市古墳群関係資料の展示 平成23年度 47遺跡、628点 平成22年度 17遺跡、555点 ◇&lt;新規&gt;秋季特別展「百舌鳥・古市の陵墓古墳」：宮内庁所蔵資料の公開される機会が少ない資料を一堂に展示することができ、全容をみていただく機会となった。 ◇冬季特別展：最新の発掘調査情報を公開することができた。</p>	S	S	世界遺産に視点を置いた展示を行うなど魅力的なテーマの選定を行い、また展示をより理解するための工夫として、学生ボランティアの導入や解説パネルを対象別に作成するなど運営に工夫を行っている。客員学芸員の導入も来年度に考えられており、当初計画どおりの成果が得られたと考える。 また、近鉄ビルサービスとの共同経営で効率的な運営を図っており、当初計画していた成果が得られたものと考えられ、指定管理者の自己評価はBであるが、Aが適正であると考えられる。	施設所管課の評価の変更は妥当。
		○「客員学芸員」制度を作り、これを活用します。	<p>■平成24年度に実施予定。 ◇秋季特別展について、展示内容、図録作成等を協働する。 ◇常設展示ガイドブック作成にあたり、協働する。</p>	A	A		
		○「学生ボランティア」を募集し、事業を活性化します。	<p>■学校教育と博物館運営を学ぶ大阪芸術大学の学生がボランティアに登録し、博物館の実務を学ぶと共に博物館は人的支援を得た。</p>	B	B		
		○民間企業との共同運営で効率的かつ効果的な博物館運営をします。	<p>■&lt;新規&gt;効率的な運営を再検討 ◇有人警備員配置時間の短縮：17時～9時30分→18時～9時30分 ◇清掃作業員配置時間の短縮、清掃場所の縮小：7時30分～16時→7時30分～14時 ◇空調機器の断続運転による光熱費の圧縮：2時間運転、2時間休止。 ◇DVDプレーヤー等の展示機器メンテナンス：年2回→1回。必要機器の選択。</p>	C	C		

評価項目	評価基準	指定管理者の提案内容	指定管理者の自己評価		文化財保護課の評価		評価委員会の意見
			事業実績	自己評価	評価	評価に対する意見	
		<p>○多様なニーズに応えるための展示を目指します。</p> <p>○「こども館長」を選び、博物館を身近なものにします。</p> <p>○平成23年度館外出展7,800人、出張講座600人を目指します。</p>	<p>■解説パネルの工夫 夏季企画展では、児童向けの解説パネルと保護者向けの解説パネルを作成。 &lt;新規&gt;体験行事の充実 夏季企画展では、勾玉作り、ペーパークラフト等の体験行事を充実。 ■解説シートや音声ガイドの作成 各特別展企画展では、パネル解説をおこなうため、解説シートや音声ガイドを作成。</p> <p>■&lt;新規&gt;地元、近つ飛鳥小学校6年生女子児童を「こども1日館長」に選出 夏季企画展開催中の8月21日に任命式を実施。来館者へのあいさつやバックヤードツアーの隊長となり、来館者の案内役を務めてもらった。近つ飛鳥小学校には1日館長選出の協力をお願いしたところ、多数の児童の立候補があり、博物館への強い興味があることがわかり、当日は友人等の出席もあり、博物館がより身近な存在になったといえる。</p> <p>■館外出展 平成23年度 8件 13,364人 平成22年度 1件 9,252人 ■出張講座 平成23年度 27件 1,684人 平成22年度 17件 2,168人 当館の展示や活動を知っていたり機会となった。</p>				
6他機関等との相互協力	<p>○学術団体・他の博物館等との連携及び相互協力について具体的にを行っているか。</p> <p>○その他、他機関等と相互協力しているか。</p>	<p>○博物館相互のネットワークを強化します。</p> <p>○学校教育の発表の場を提供します。</p> <p>○海外の研究者との交流し、相互協力を進めます。</p> <p>○地元大学との連携を進めます。</p> <p>○地元市町村のイベントに協力し、相乗効果を生み出します。</p> <p>○共同運営企業のネットワークを用いて多角的な協力体制は作ります。</p>	<p>■大阪と奈良にまたがって連携している「金剛葛城地域博物館ネットワーク協議会」 五條方面へのバスツアーを、当館が幹事館として実施。参加者47人 各館の案内も同時に行なった。</p> <p>■「古墳の森コンサート」 春：436人、秋：327人（秋の実施は&lt;新規&gt;） 地元高校の軽音楽部を募り、実施。高校生にとっては、他校との交流にもなり、発表の場が増え、好評を得るとともに博物館を知る機会にもなっている。高校からの楽器借用、音響ミキサーの操作の依頼、舞台の設営等相互協力をして実施した。</p> <p>■海外研究者との意見交流 日韓の横穴式石室の様相。日韓の保存科学。日中の博物館における学校教育との取組。日英の世界文化遺産。 平成23年度 23人（韓国、中国、イギリス、ウズベキスタン） 平成22年度 51人（韓国、中国）</p> <p>■大阪芸術大学デザイン学科 ポスター・チラシのデザインの連携 冬季特別展において教授、学生の協力を得た。複数の学生によるプレゼンテーションを実施し、その後の完成に至る過程を実務として経験してもらった。 ■&lt;新規&gt;大阪芸術大学放送学科、アサウンスコース 児童向け音声ガイド作成の連携 文化庁の地域活性化事業を受け、教授、副手、学生と連携し、原稿の検討、吹込み作業を実施。</p> <p>■勾玉作り、古代衣裳着用体験、博物館紹介の実施 河南町の「かなんフェス」、「文化祭典」、地元自治会の「大宝まつり」、大阪府の「咲洲魅力発信体感イベント」、「御堂筋kappo」、「大阪マラソンプレイイベント」「世界文化遺産シンポジウム」に協力。</p> <p>■&lt;新規&gt;広報の強化 近鉄グループの近鉄文化サロンとの共催講座の案内チラシに博物館案内を掲載。数万枚の印刷部数。</p>	S A B C	S A B C	<p>他の博物館との連携によるバスツアーの実施や、地元自治体で実施するイベントへの参加、地元学校との協力によるコンサートなどの多彩な行事を実施していること。 ポスター・チラシの作成、音声ガイドの作成などを大阪芸大と連携しながら行っていること。 また、グループ化による新たな連携により、広報の強化を図るなど、指定管理者の自己評価については適正であると考え。</p>	施設所管課の評価は妥当。

評価項目	評価基準	指定管理者の提案内容	指定管理者の自己評価		文化財保護課の評価		評価委員会の意見
			事業実績	自己評価	評価	評価に対する意見	
7施設及び資料の維持管理の内容、合理性	○施設・設備の維持・安全管理計画は適切か。 ○資料の保管及び保管について適切な管理及び体制がとられているか。	○ハイクオリティーでローコストな施設管理に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■&lt;新規&gt;個別に外部委託していた業務を一元化することにより、内容や回数の見直しを実施。</li> <li>◇有人警備員配置時間の短縮：17時～9時30分→18時～9時30分</li> <li>◇清掃作業員配置時間の短縮、清掃場所の縮小：7時30分～16時→7時30分～14時</li> <li>◇空調機器の断続運転による光熱費の圧縮：2時間運転、2時間休止。（温湿度変化を記録し、異常があれば運転方法の再検討を行う）</li> <li>◇DVDプレーヤー等の展示機器メンテナンス：年2回→1回。必要機器の選択。</li> </ul>	S	S	有人警備員の時間変更など、グループ会社のノウハウをいかした施設管理の見直しを適正に行い、資料の管理にも十分な配慮が行われていることから、指定管理者の自己評価については適正であると考えられる。	施設所管課の評価は妥当。
		○安全な施設管理を心がけます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■消防訓練の実施 河南消防署と共同で消防計画に基づく訓練を実施。近鉄ビルサービスク株式会社関係職員とも協働。AEDの救命講習も実施。スタッフに対して、非常避難通路等の再確認を実施した。</li> <li>■&lt;新規&gt;緊急ブザーの設置 受付での不審者に対して、2階職員が即座に対応できるように設置した。</li> <li>■&lt;新規&gt;防犯カメラの設置 大駐車場を把握するため、設置した。</li> </ul>	C	C		
		○保管環境などを定期的に点検し、万全の資料管理を行います。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■温湿度の把握 ビルメンテナンス会社での監視を実施するとともに、現場では温湿度計を設置し、逐一保管環境状況が把握できる体制をとっている。</li> <li>■重要文化財の「修繕」、京都大学所蔵の「紫金山古墳、南塚古墳にかかわる資料」は定期点検を実施。</li> </ul>	A	A		
8府施策との整合	○府事業及び公益事業等への協力状況 ○行政の福祉化実施状況 ・就職困難層への雇用・就労支援 ・知的障がい者の清掃現場就業状況 ○府民・企業、NPO等との協働状況 ○環境問題への取り組み状況	○「『大阪の教育力』向上プラン」にそって、博物館事業を進めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■学芸員と教育専門員の専門知識、ノウハウを活用し、事業を推進</li> <li>◇出前授業 平成23年度1月末現在 59回、2,089人 平成22年度1月末現在 36回、968人</li> <li>◇校外学習の受入れ 平成23年度1月末現在 46校、3,738人 平成22年度1月末現在 35校、2,388人</li> <li>講義形式ではなく、実物に触れたり、勾玉作りやペーパークラフト等の体験を組み入れて行なった。</li> <li>◇教員研修 歴史教育への取り組みや博物館の活用方法について研修を3回実施。</li> </ul>	S	S	府が計画を進めている世界遺産登録に係ったテーマの展示を行うなど、府施策との協力は、積極的に行われており、環境問題への取り組みも着実に実施しているため、指定管理者の自己評価については適正であると考えられる。	施設所管課の評価は妥当。
		○「大阪ミュージアム構想」にそって、大阪の魅力を発信します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■大阪府立近つ飛鳥風土記の丘は大阪ミュージアム構想のベストセレクションに選定されている。古墳の史跡であると共に、「みどり・自然」のジャンルでもあり、梅や桜は名所として新聞案内情報に記されており、開花情報等を提供。</li> </ul>	A	A		
		○世界文化遺産登録に向けて協力していきます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■百舌鳥・古市古墳群の資料の展示 特別展企画展において、資料を積極的に展示した。特に秋季特別展では「百舌鳥・古市の陵墓古墳」と題して目に触れる機会が少ない宮内庁資料の大部分を借用し、展示。</li> <li>■&lt;新規&gt;世界文化遺産登録に向けたロゴマーク 推進本部会議で制定されたので、当館のポスターに積極的に使用した。</li> <li>■推進本部会議の行事には、当館のチラシの配布を行い広報。</li> </ul>	B	B		
		○「こころの再生」府民運動に協力します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■子どもファーストデイを毎月第3土曜日に実施 12回 保護者とのコミュニケーション作りを心がけ、当館や風土記の丘を知ってもらう機会にもなっている。（平成22年度 12回）</li> </ul>	C	C		
		○行政の福祉化実施状況 ・就職困難層への雇用・就労支援 ・知的障がい者の清掃現場就業状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>■知的障がい者の清掃業務への雇用を継続しています。</li> </ul>				
		○ボランティアの幅を広げ、府民協働を進めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■太子町や羽曳野市等のボランティア組織の連絡会である「みなみかわちガイドネットワーク」と協働し、さくらまつり等の行事を実施。ボランティアの行事に対してホール等博物館施設を積極的に活用していただいた。</li> </ul>				
		○NPOの協力を得て、博物館事業を充実します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■羽曳野市NPO法人フィールドミュージアムネットワーク史遊会 9月に実施した大阪市内りそなホールでの講演会で協力を得て、実施。</li> <li>■NPO法人歴史体験サポートセンター楽古 協働事業として、出前講座を実施。</li> <li>■&lt;新規&gt;NPO法人大阪高齢者大学 当館ホールでの講演会実施に協力し、相互に事業支援を行なった。</li> </ul>				

評価項目	評価基準	指定管理者の提案内容	指定管理者の自己評価		文化財保護課の評価		評価委員会の意見
			事業実績	自己評価	評価	評価に対する意見	
		<p>○府民やNPOが参加、参画できる機会を増やします。</p> <p>○環境問題について、館内事業者に周知徹底します。</p> <p>○省エネ、経済運転に心がけます。</p> <p>○実効性を伴う環境問題に関する具体策を提案します。</p>	<p>■近つ飛鳥ギャラリーの実施 平成23年度1月末現在 8回 開催日数 174日 平成22年度1月末現在 9回 開催日数 166日 活動成果の発表の場を提供することができた。</p> <p>■適切なエアコン設定温度、部分的な照明消灯等を実施すると共に、職員、スタッフの省エネ意識を高めた。館内照明を従前のハログンライトからLEDライトへの切り替えを進めた。</p> <p>■空調機器の間欠運転の実施 間欠運転による展示品への影響がない温湿度変化であることを確認。 ■照明の消灯 事務室の照明を半分に落としました。階段等、小まめに消灯。</p> <p>■トナーカートリッジのリサイクルを実施しました。 ■その他の環境問題に関する提案については、それぞれの実効性を検討し、実現可能なものから平成24年度以降、順次実施していく予定。</p>				
I 総括			<p>○常設展示および4回の特別展企画展の実施において大阪の魅力の発信しました。大阪府・堺市・羽曳野市・藤井寺市が進める百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録推進へも積極的に取り組みました。特に秋季特別展は大阪府立の博物館としての役割を果たした展示会と考えています。 ○次世代を担う児童への歴史・文化財教育に寄与しました。 展示方法を工夫し、また、体験を通じた学習により「学び」のきっかけづくりになったと思われま。博物館に来館していただくことはもちろんのことですが、出前授業に向き、教員との連携をもちながら進めました。 「こども1日館長」、秋の「古墳の森コンサート」等、新規に実施した行事は好評であり、次年度以降も継続して行う予定です。 ○成人への生涯学習を推進しました。 出前講座・講演を実施し、大阪の歴史や博物館を知る機会をつくりました。当博物館の立地がデメリットだという意見をいただきますが、講座・講演会を通じてメリットに変えていきます。 ○学芸員活動を発信して行きます。 ホームページの学芸員ブログは、一層の更新を行ないました。 ○「客員学芸員」制度は、平成24年度に実施できるように体制を組みます。</p>				
<b>II さらなるサービスの向上に関する項目</b>							
9利用者満足度調査	○利用者満足度調査結果分析を取り入れ、フィードバックしているか。	○アンケート調査を充実し、よりよい博物館を目指します。	<p>■特別展・企画展の実施ごとに来館者へのアンケートを実施。満足・不満足的项目を分析する会議を3回（1月末現在）実施し、実行可能なものから順次取り入れ、改善を図っている。</p>	S A B C	S A B C	特別展、企画展の展示内容に関するアンケートは実施しているが、総合的な満足度調査が実施されていないこと、分析結果の具体的なフィードバックが示されていないことなどから、指定管理者の自己評価については適正であると考える。	施設所管課の評価は妥当。
10その他創意工夫	その他指定管理者によるサービス向上につながる取組み、創意工夫が行われているか。		<p>■オリジナルのミュージアムグッズの開発 日本でぬぐいや地元物産のワイン、ポストカードをリニューアル。 ■書籍販売の充実 〈新規〉展示会にかかわる一般書籍や当財団の発掘調査報告書も販売に取り入れた。 ◇特別展の図録の印刷部数を多くし、品切れを防ぐと共に、単価を下げ、入手しやすい価格帯に設定。 ■企業との提携 〈新規〉近鉄ビルサービス株式会社と指定管理のグループをつくる中で近鉄グループ企業との連携を推進し、近鉄文化サロンとの講座共催をすすめた。</p>	S A B C	S A B C	ミュージアムグッズの開発など、今年度新たな創意工夫が見られるので、指定管理者の自己評価については適正であると考える。	施設所管課の評価は妥当。
II 総括			<p>○アンケート調査を実施し、よりよい博物館運営を目指しました。問題点の整理と実現可能な項目か、判断していきます。特別展企画展毎に次年度以降もアンケート調査は実施します。 ○ミュージアムショップの品揃えをより一層、充実していきます。常設展示ガイドブックがなく、来館者からの要望が多く、次年度に刊行する予定です。 ○近鉄文化サロンとの連携を一層強め、新たな客層を獲得します。</p>				

評価項目	評価基準	指定管理者の提案内容	指定管理者の自己評価		文化財保護課の評価		評価委員会の意見
			事業実績	自己評価	評価	評価に対する意見	
<b>Ⅲ 適正な管理業務の遂行を図ることができる能力及び財政基盤に関する事項</b>							
11 収支計画の内容、適格性及び実現の程度	<p>○収入・支出の積算と事業計画の整合性は図られているか。</p> <p>○収支計画の実現可能性はあるか。</p>	<p>○さらなる人件費の削減に努めます。</p> <p>○企業との連携によるコスト削減を図ります。</p> <p>○入館料収入減少の際には自主事業収入から繰り入れを行います。</p>	<p>■管理部門人件費の削減（新規）副館長職を学芸課長兼任とし、管理部門の人件費を削減しつつ、センター本部でのバックアップ体制の強化を図った。 （新規）受付業務の配置は管理部門と、また展示室内業務については学芸部門の人員と一体化し、人件費を削減した。いずれも機動力をもって、柔軟に動ける体制をつくるとともに、イベント等人員が必要な場合は、ボランティアの応援体制をつくった。</p> <p>■ビルメンテナンス会社との連携 （新規）近鉄ビルサービス株式会社とのグループ化により、施設の保守点検等の一元管理と各項目の見直しを行い、施設管理の適正化と効率化を図り、前年比約10%のコスト削減を図った。</p> <p>■自主事業の充実 ◇来館記念品（博物館グッズ）の開発を適時進める等、自主事業を積極的に展開し、入館料収入減少時の繰入金金を確保するよう努めている。</p>	S A	S A	人件費の削減、グループ化による経費削減など、効率的な管理運営に努めており、指定管理者の自己評価については適正であると考えます。	施設所管課の評価は妥当。
12 安定的な運営が可能となる人的能力	<p>○十分な専門的力量及び実績をもつ専門職員の配置が図られているか。</p> <p>○職員採用・確保の方策（継続雇用等）は適切か。</p> <p>○府職員との協働体制は適切か。</p> <p>○職員の指導育成・研修体制は適切か。</p> <p>○効率的かつ効果的な業務執行体制を提案しているか。</p> <p>○明確な責任体制を提案しているか。</p>	<p>○これまでの経験と実績を継承できるスタッフ力があります。</p> <p>○センター本部との連携と教育委員会との連絡調整を密にします。</p> <p>○企業との協力体制を構築します。</p> <p>○運営協議会の助言・指導を受けて事業を進めます。</p>	<p>■過去5年間培ってきたノウハウの蓄積、活用◇当センターの考古学系専門職員の豊富な人材と過去5年間の指定管理期間の経験実績を継承した職員を配置（専門職員6名、教育専門員1名）。受付、展示室等のスタッフにおいても、これまでのノウハウの蓄積を継承、活用し、利便性の向上に努めた。</p> <p>■博物館、センター本部、大阪府教育委員会との間の定期連絡会議の開催 ◇常に現状把握と解決策を話し合い、その間に発生した事項に対しては報告・連絡・相談を確実にし、互いの意思疎通を密に連携のないように心がけている。</p> <p>■近鉄グループ会社との協力体制 （新規）近鉄ビルサービス株式会社とのグループ化により、施設管理面での連携協力のみならず、広報や館外事業等の面において、近鉄本社をはじめ近鉄グループ傘下企業との協力体制を構築し、今後も積極的な事業展開を図っていく予定である。</p> <p>■運営協議会委員の刷新 （新規）今年度より、河南町、太子町の両教育長、近つ飛鳥小学校校長を運営協議会の委員に委嘱し、より地元とのつながりのある助言、指導を受けることができた。</p>	S A B C	S A B C	組織のもつ人材を十分に活かした配置を行ったうえで、府職員との定期的な会合を開くなど、計画達成にむけて協議を行っているため、指定管理者の自己評価については適正であると考えます。	施設所管課の評価は妥当。
13 安定的な運営が可能となる財政的基盤	<p>○運営基盤として、経営規模・事業規模・組織規模は充分か。</p> <p>○運営基盤として、財務状況は適正か。</p>		<p>【大阪府文化財センター】</p> <p>■経営規模、事業規模 大阪府内の発掘調査及び博物館の管理運営を安定的に行っている。 前期事業収益：1,708,670千円 前期経常収益：1,775,405千円</p> <p>■健全な財務状況 法人の基本財産：116,700千円 正味財産前期末残高：1,728,140千円 借入金：なし</p> <p>■公益財団法人への移行 大阪府より公益認定を受け、平成23年4月に公益財団法人に移行</p> <p>【【近鉄ビルサービス】】</p> <p>■経営規模、事業規模 近鉄グループのビル等物件を中心に、地方公益団体や民間企業の施設維持管理業務等により安定的収益を維持。</p> <p>■健全な財務状況 前期売上高：21,436,410千円 経常利益：105,892千円 自己資本率：100億円超の総資産に対し26.1% 借入金：なし</p>	S A B C	S A B C	経営については、特に問題は見られず、指定管理者の自己評価については適正であると考えます。	施設所管課の評価は妥当。
Ⅲ 総括			<p>○ビルメンテナンスの専門会社である近鉄ビルサービス株式会社と協力体制を組んだことにより、同社と文化財センターがそれぞれの専門性を活かした安定的な運営を図ることができたと考えています。</p> <p>○コスト削減についても、施設管理の一元化や人件費の圧縮、ホームページの自前管理による更新手数料の削減等によって効果が出ているところです。</p>				

※ 評価は下記の4段階評価とする。  
**S：優良**（提案以上の事業を実施し、大きな成果が得られた）  
**B：ほぼ良好**（計画には達しなかったが、ほぼ初期の目的が得られた）  
**A：良好**（計画通りに事業を実施し、当初の成果が得られた）  
**C：要改善**（計画に達せず、改善の余地がある）

※ 指定管理者の自己評価結果と施設所管課の評価結果とを突き合わせて、指定管理者と施設所管課の双方が共通の課題認識を行う必要がある。

※ サービスの継続性については、事業主体が作成している財務諸表等からチェックを行い、必要に応じて施設所管課を通じ事業者に対して説明を求める。

※ 評価委員会は、評価が妥当であるか意見を述べ、評価委員会が施設所管課へ指摘・提言を行う。